

# 蒲生タイムス

夏号

医療法人  
小倉蒲生病院

## 小倉蒲生病院の病院理念

入院医療から地域ケアまで、地域に開かれた病院づくりと患者様とご家族の支援をめざす

## 小倉蒲生病院の基本方針

- 患者様本位の上質な医療サービスの提供  
「信頼・安心・満足」
- 地域社会のニーズにこたえ在宅ケアの支援を行う

### 日本医療機能評価の受審を終えて

平成16年3月23日、25日にかけて、日本医療機能評価の二度目の受審を終えることが出来ました。

今ある精神Aの認定を傷つけないよう新評価でも認定をしていただけたら、小倉蒲生病院職員が一丸となって努力することが出来たと、達成感があります。結果は未だですが、何はともあれ無事受審を終えることが出来ました事を感謝し、ご報告申し上げます。今後共、病院の質向上に努力を重ねてまいりたいと思っております。

### 新副院長(医師)誕生



小倉蒲生病院

野瀬 巖

当病院は今まで看護職の副院長がおりましたが此度、医師の副院長が誕生しましたので、ご紹介致します。

### プロフィール

昭和32年7月生まれ、久留米大学医学部卒業。大学院終了。同大学(精神医学)講師、小倉記念病院主任部長を経て平成16年4月1日より医療法人小倉蒲生病院副院長兼診療部長に就任する。

### ご挨拶

初めまして、野瀬と申します。久留米大学に18年間在局しておりましたが、西島先生、井田先生にお誘いいただき小倉蒲生病院に就職した次第です。

大学では診療だけでなく、講師として学生の教育と睡眠の研究をしておりました。小倉蒲生病院でも睡眠障害に焦点を当てた外来なども、取り組みたいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。



高齢化社会の進展により、痴呆症がクローズアップされるようになりました。最近の研究で、痴呆症は幼年期や青年期からの生活習慣が関連している可能性があることが分かってきました。そこで、今回は「痴呆の予防と生活習慣病」について、井田院長が分かりやすく説明します。



## テーマ：痴呆の発症予防と生活習慣病



井田 能成

略歴

久留米大学医学部卒業 同大学院修了  
同大学医学部講師を経て米国留学  
平成10年から小倉蒲生病院院長

最近の痴呆の出現割合を原因疾患別にみてみると、アルツハイマー型痴呆が約50%、脳血管性痴呆が約30%、その他が約20%（両者の混合型も含む）となり、わが国でもアルツハイマー型痴呆の占める割合が年々増加する傾向にあります。高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病が動脈硬化を起し、脳の血管性病変の誘因となることから脳血管性痴呆の危険因子であることはよく知られていますが、最近では動脈硬化に基づく脳血管性病変がアルツハイマー型

痴呆の発症にも関連することが示されており、いずれの痴呆の発症にも中年期以降、あるいはもつとさかのぼった幼少期や青年期からの生活習慣が関連する可能性が指摘されています。「栄養、運動、休養」は健康の三要素ですが、脳の機能を維持しいずれの痴呆の発症予防にもこれらの三要素が関連することを示す知見が増えつつあります。特に高齢者の認知機能と食事栄養素との関係を調べた疫学調査からは、緑黄色野菜、果物、食物繊維、魚の摂取量が多く、脂質の摂

取量が少ないほど、痴呆になる危険率が少なくなると報告されています。すなわち、子供の頃から欧米食よりも日本食を多く摂ってきた人ほど痴呆になりにくいといえます。また、運動の痴呆予防効果も報告されており、適度な運動には脳血流量の改善、血圧の低下作用、血清脂質レベルの低下、血小板凝集能の抑制、脳代謝需要の亢進などの効果があり、痴呆の発症を予防すると推測されています。規則的な睡眠や適度な昼寝をすることが、痴呆の発症を予防するという報告もあります。ですから、健康の三要素である「栄養、運動、休養」を毎日の生活のなかで上手にバランスよく摂り、生活習慣病の発症を予防することが、脳の健康を維持し痴呆発症の予防になるといえるのです。どうぞお気軽にご相談下さい。

### 介護するご家族へ…



家族で介護をされているご家庭では、介護をなさる方も心の健康が非常に重要です。介護の辛い面に目が向きがちですが、プラス面を探したり、時には介護から離れて自分の時間を持てるよう、周囲に協力を依頼してみましょ。

by.小峠







高齢者の自立をサポート、ご本人の生き方をフォローします。

# グループホーム

## 痴呆グループホームとは…

プライバシーを配慮した住居に少人数で暮らし、それぞれの能力を生かしながらアットホームな生活を送れる生活の場です。24時間の援助体制のもとで痴呆性高齢者本位の生活ができる「新たな自宅」と考えて下さい。定められた規則や日課はありません。ひとりひとりのペースで自分らしい生活を送れます。



### Q 日頃の身の廻りのお世話はどうなりますか。

A 出来ないことについては職員がサポートします。ご本人が出来ることについては、出来るだけ行っていただき、自立支援を目指しています。

### Q 医療機関との連携はありますか。

A 母体の小倉蒲生病院や、ホーム近くのおおきクリニック(内科)、かんだぎ歯科、北九州総合病院にも協力医療機関となっており、協力を得ています。

### Q 行事等がありますか。

A 季節行事(節分・七夕・クリスマスetc)や、誕生会・花見等、四季折々の行事を行っています。

### Q 地域との関わりはありますか。

A 校区の盆踊りや、地域交流センターでの催し等に参加したり、近所の神社の行事を見に行ったりしています。又、地域にあるスーパー等に行ったり、外食等も行っています。

### Q グループホームに入所しても、園芸等の趣味は行えますか。

A グループホームでも、花を植えたり、野菜を育てたりしています。又、ご自分の部屋で花を育てている方もいます。

**P.R.** グループホームしあわせは、母体の小倉蒲生病院より少し離れた小倉南区徳力のモノレール沿いにあります。ホーム周辺は住宅街となっており、目の前には公園、近所には歩いて行ける所にスーパー等もあり、利便性が良い環境です。又、入居者お一人お一人の個性を尊重し、「安心」「信頼」「満足」をお届けできるよう日々、介護に努めています。



発行



医療法人 小倉蒲生病院

〒802-0978 小倉南区蒲生5丁目5番1号

☎093(961)3238(代)